

「川崎市の人口動態一令和 6（2024）年一」を公表します

「住民基本台帳法」及び「戸籍法」の届出による日本人及び外国人住民の動態から、令和 6（2024）年（暦年）の人口増減について概要をまとめた「川崎市の人口動態一令和 6（2024）年一」を公表します。

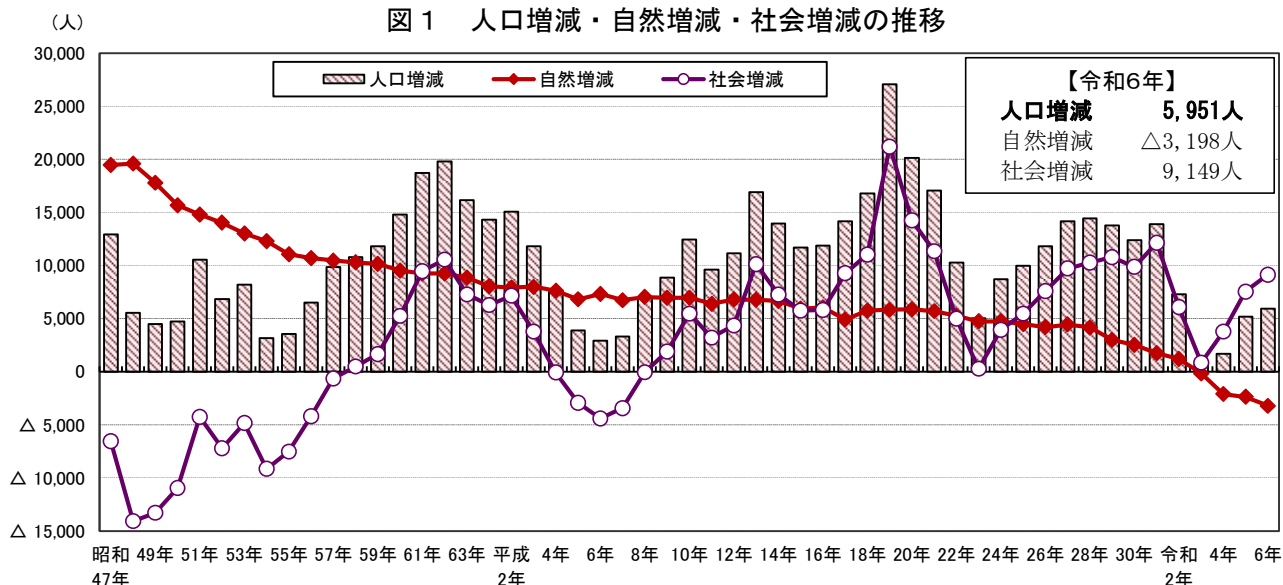
- ・人口増減は 5, 9 5 1 人の増加（対前年 756 人増）
- ・自然増減は 3, 1 9 8 人の減少【4 年連続】（対前年 837 人減／出生数 498 人減・死亡数 339 人増）
- ・社会増減は 9, 1 4 9 人の増加【28 年連続】（対前年 1, 593 人増／転入数 465 人増・転出数 1, 128 人減）
- ・区別の人口増減は宮前区及び麻生区で減少、他 5 区で増加／麻生区では 4 年連続減少
- ・外国人住民の人口増減は 3 年連続で増加

1 川崎市の人口動態（本文 P. 2）

令和 6（2024）年 1 年間の本市の人口増減（自然増減数＋社会増減数）は 5, 951 人増（対前年 756 人増）となりました。このうち自然増減（出生数－死亡数）は 3, 198 人減（対前年 837 人減）で、社会増減（転入数－転出数）は 9, 149 人増（対前年 1, 593 人増）となりました。男女別の人口増減数を見ると、男性が 3, 032 人増（同 290 人増）で、女性が 2, 919 人増（同 466 人増）となりました。（図 1）

	総 数		男		女	
	対前年増減数		対前年増減数		対前年増減数	
人口増減	5 951 人増	(756)	3 032 人増	(290)	2 919 人増	(466)
自然増減	3 198 人減	(△ 837)	1 990 人減	(△ 610)	1 208 人減	(△ 227)
出生	10 873 人	(△ 498)	5 539 人	(△ 375)	5 334 人	(△ 123)
死亡	14 071 人	(339)	7 529 人	(235)	6 542 人	(104)
社会増減	9 149 人増	(1 593)	5 022 人増	(900)	4 127 人増	(693)
転入	106 605 人	(465)	57 013 人	(72)	49 592 人	(393)
転出	97 456 人	(△ 1 128)	51 991 人	(△ 828)	45 465 人	(△ 300)

図 1 人口増減・自然増減・社会増減の推移



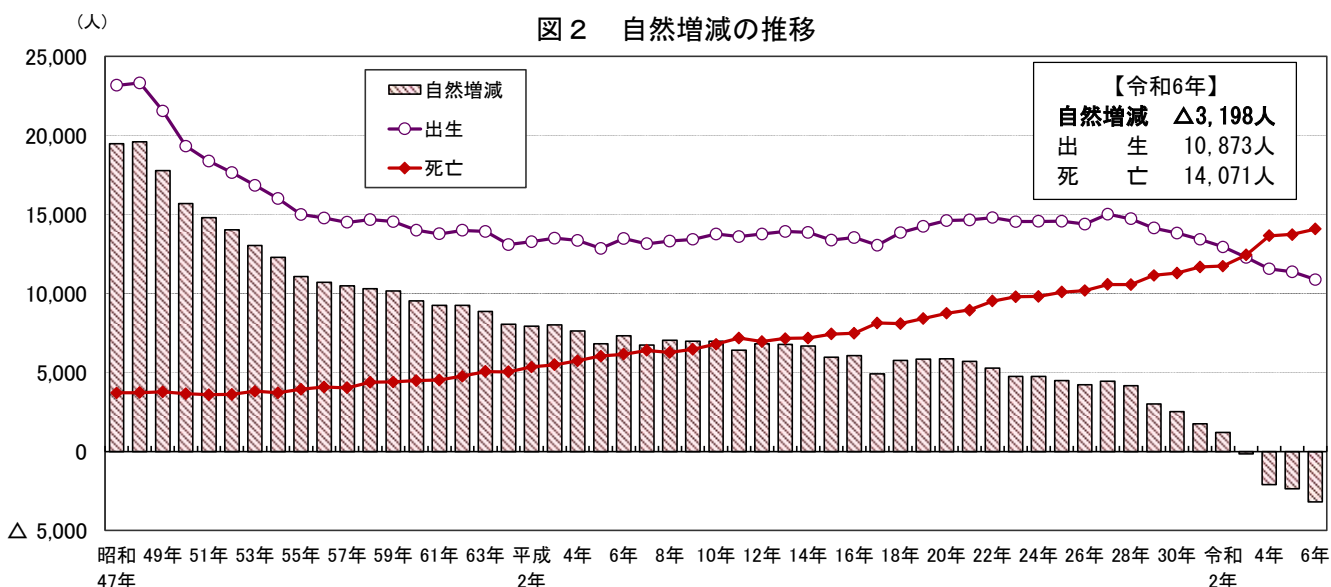
問合せ先

川崎市総務企画局都市政策部統計情報課 片岡

電話 044-200-2066

2 自然動態（本文 P. 4～7）

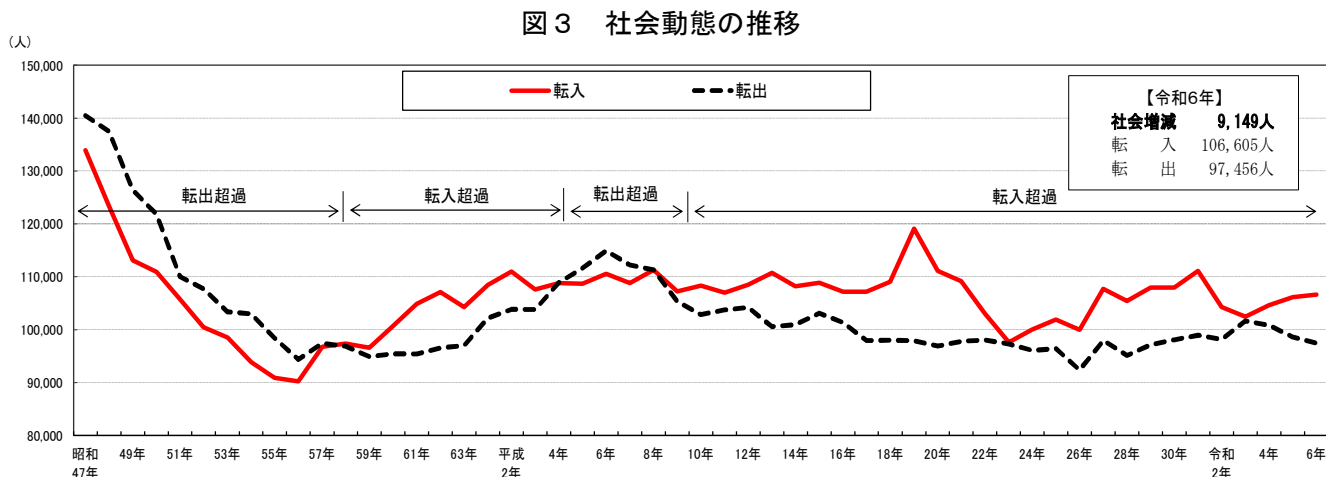
自然動態は、出生が 10,873 人（対前年 498 人減）、死亡が 14,071 人（同 339 人増）で、出生から死亡を差し引いた自然増減は 3,198 人減（同 837 人減）となりました。近年の出生数は、平成 27（2015）年の 15,015 人をピークに減少が続き、令和 6（2024）年には、10,873 人まで低下しました。死亡数は、高齢化の進行に伴い増加傾向にあり、平成 25（2013）年以降 12 年連続で 1 万人を超え、令和 6（2024）年は、14,071 人となりました。（図 2）



3 社会動態（本文 P. 8、10～11）

（1）川崎市の社会動態

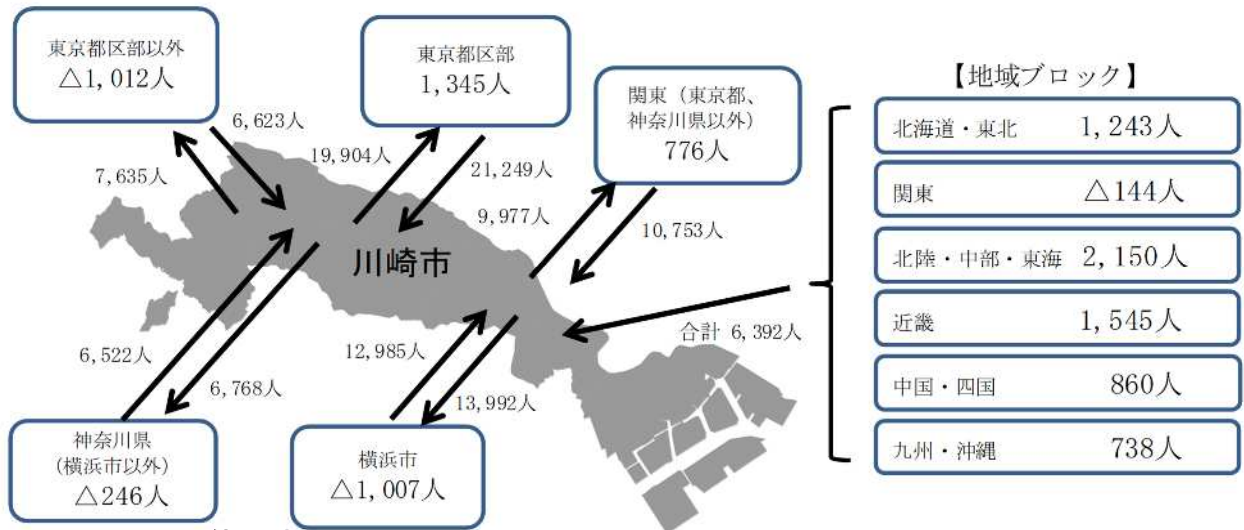
社会動態は、転入が 106,605 人（対前年 465 人増）、転出が 97,456 人（同 1,128 人減）で、転入から転出を差し引いた社会増減は 9,149 人増（同 1,593 人増）となりました。なお、社会増減は平成 9（1997）年以降、28 年連続で社会増（転入超過）となっています。（図 3）



（2）転入前・転出後の住所地別移動人口

関東のうち東京都及び神奈川県についてみると、東京都区部との関係では 1,345 人の転入超過、東京都区部以外との関係では 1,012 人の転出超過となり、その差引きとして、東京都に対しては、333 人の転入超過となりました。また、横浜市との関係では 1,007 人、神奈川県（横浜市以外）との関係では 246 人の転出超過となり、その結果として、神奈川県に対しては、1,253 人の転出超過となりました。そのため、東京都、神奈川県以外の関東に対しては、776 人の転入超過となりました。（図 4）

図4 地域ブロック及び東京都、神奈川県との移動人口（令和6（2024）年）



4 区別の人口動態（本文 P.2～3、5、14）

区別の人口動態をみると、人口増減が最も多いのは、多摩区の2,167人増（人口増減率0.96％）で、次いで幸区の1,508人増（同0.87％）、中原区の1,414人増（同0.53％）、川崎区の936人増（同0.41％）、高津区の647人増（同0.28％）の順となりました。一方、麻生区は246人減（同△0.14％）、宮前区は475人減（同△0.20％）となりました。麻生区は4年連続の人口減となりました。

自然増減は中原区で487人増（自然増減率0.18％）と唯一増加し、その他の6区では減少となっています。社会増減は全ての区において社会増となっており、増加数は多摩区（2,412人増）が最も多く、次いで川崎区（2,337人増）、高津区（1,032人増）の順となっています。（表1）

表1 区別人口動態（令和6（2024）年）

	全市	川崎区				幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
		(区役所)	(大師)	(田島)							
人口増減(人)	5 951	936	679	62	195	1 508	1 414	647	△ 475	2 167	△ 246
自然増減(人)	△ 3 198	△ 1 401	△ 562	△ 397	△ 442	△ 382	487	△ 385	△ 605	△ 245	△ 667
社会増減(人)	9 149	2 337	1 241	459	637	1 890	927	1 032	130	2 412	421
人口増減率(%)	0.39	0.41	0.66	0.08	0.38	0.87	0.53	0.28	△ 0.20	0.96	△ 0.14
自然増減率(%)	△ 0.21	△ 0.61	△ 0.55	△ 0.51	△ 0.87	△ 0.22	0.18	△ 0.16	△ 0.26	△ 0.11	△ 0.37
社会増減率(%)	0.59	1.01	1.21	0.59	1.26	1.10	0.35	0.44	0.06	1.07	0.23

5 外国人住民の人口動態（本文 P.4）

外国人住民の人口増減は5,044人増、自然増減は289人増、社会増減は4,755人増となり、人口増減及び社会増減は、3年連続で増加となりました。また、区別の人口増減は、全ての区で増加となっています。（表2）

表2 外国人住民の人口動態の推移

年次	人口増減 a + b	自然増減 a	社会増減 b	区別人口増減						
				(人)						
				川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
平成 28 年	2 689	255	2 434	851	487	334	202	220	379	216
29 年	3 113	185	2 928	1 520	293	442	189	223	297	149
30 年	2 886	232	2 654	993	232	552	215	207	424	263
令和 元 年	3 974	292	3 682	991	624	575	638	368	472	306
2 年	△ 277	245	△ 522	△ 105	△ 117	△ 182	76	112	△ 64	3
3 年	△ 1 507	241	△ 1 748	△ 747	△ 137	△ 201	△ 209	72	△ 281	△ 4
4 年	2 785	197	2 588	594	404	565	353	343	278	248
5 年	4 109	213	3 896	1 630	494	320	527	397	380	361
6 年	5 044	289	4 755	1 693	700	654	518	381	745	353